

春らとまんの日野町を案内しました

— 姉妹都市エンブ市使節団来町 —

(5月1日～3日)

歴史と伝統の日野祭、溪谷の芸術ホンシヤクナゲ群落。日野町がいきいきと輝く季節に、日野町と姉妹都市関係にあるブラジル連邦共和国サンパウロ州エンブ市より使節団(2名)をお迎えしました。

今回お越しいただいたのは、エンブ・日野友好の会の長田真央会長と菅原パウロ農夫男前会長で、5月1日から3日までの間、日野町に滞在されました。

お二人は、5月1日に藤澤町長、日野町国際親善協会会長(西岡孫衛さん)をはじめとする関係者の出迎いで役場を表敬訪問されました。夜の歓迎会では、町民の皆さんと共に交流の輪を広げていただきました。

★エンブ市との交流のきっかけ★
1980(昭和55)年8月10日に開催された国体リハーサル大会、全国教職員相撲選手権大会にブラジル国相撲連盟一行が視察に来町、民泊家庭の心からの歓迎に感激されました。このことがきっかけとなり、エンブ市からの強い希望もあり友好を深めることになりました。



▲宵宮の最高潮を曳山の上で体験



▶しゃくなげ溪を散策



▲役場を表敬訪問
長田会長(手前中央) 菅原前会長(右)

翌2日は、鎌掛のしゃくなげ溪を散策され、自然を大切にしつつ環境整備されていることに驚いておられました。そして、夜には札の辻(大窪)に集結した曳山に乗り、宵宮を堪能されました。
最終日の3日は、威勢よく法被をまとい、金英町(大窪)の曳山の引き手として馬見岡綿向神社まで同行され、「貴重な体験をさせてもらいました」と感激されていました。

春の花が鮮やかで、祭囃子のにぎやかなこの季節に使節団をお迎えすることは少ないのですが、日野町の素晴らしい一面をご紹介できました。3日間という短い期間でしたが、ホームステイをはじめ、町内の各所で住民の方とのふれあいがありました。そして、名残を惜しみつつ、再会を約束しお別れしました。



▲喜びの再会(歓迎会)